

## 小学校教科書内容に則した動物園プログラムの実施について

○井川阿久里，櫻堂由希子，田村理恵，今村友維子  
(野毛山動物園)

横浜市の公立小学校では、2年生の国語科で「動物園のじゅうい」という単元が実施されている。これに伴い、野毛山動物園では、平成24年より小学校の遠足利用の際に、動物園の獣医が実際に動物園での仕事内容を紹介する教育プログラムを開始した。

「動物園のじゅうい」は動物園で働く獣医の一日の様子や仕事の内容について紹介したもので、「する仕事」「そうする理由」を対応させて読むことを目標とした教材である。また自分の生活や経験と結び付けて文章を読むことで、自分なりの感想を持ったり、読書と生活を結び付けたりする効果も期待されている。

現在当園で学校団体を対象にした教育プログラムは出張対応が3種類、来園対応を2種類用意している。すべて事前予約制で、一日一団体先着としている。「動物園のじゅうい」については、獣医の負担を考慮し、週に一団体の受付とした。プログラム内容は、教科書にあわせて、獣医の一日のスケジュールを野毛山動物園の場合にあてはめでの説明、実際に野毛山動物園であった動物の病気や治療について、麻酔に使用する吹き矢の実演、聴診器を使った聴診体験などを行っている。プログラム開始から、4年目を迎え、プログラムを希望する学校は増加傾向にある。予定日がすぐに埋まってしまう場合、学校側の承諾を得て、獣医以外の職員が実施するなどの対応をしている。単元実施後の遠足の際に利用する学校が多く、児童は教科書で学んだ内容を実際に獣医から聞くことができるため、熱心に話を聞き質問している印象を受ける。今後の課題として、プログラム実施内容の再検討や、増える希望者に対してより効率的に対応できる受け入れ態勢の構築などが必要となる。